［アオサ除去費用の参考資料］

表 2-1　海の公園で実施されている回収方法

（(財) 横浜市臨海環境保全事業団資料）

方法	時期	対象区域	内容	費用	効果等
人力およびトラクターによる回収	周年（発生時に随時）	汀線付近	レイキやフォークを用いて人力で回収．併せてフォーク装備のトラクターで収集する．	1 時間あたり 10,000 円 (年間実績) 7,300,000 円	混雑時でも作業が可能． 1 人 1 時間あたり 1 t 回収 (年間)約 730 t 回収
大型地びき網による回収	6 月（海開き前）	水深 2m～汀まで	幅 200m，高さ 3m の網をかけ，両端から 1 台づつの大型重機で 4 時間かけて引き上げる．	1 回あたり 800,000 円 （年間実績）4,000,000 円	混雑時には作業ができない． 1 回平均 20 t 回収 （年間）約 100 t 回収
桁網船による回収	3 月	水深 3～4m	沖合いに堆積・浮遊するアオサを，漁船が曳く桁網により回収．	3 隻 6 時間で 1 回あたり 350,000 円 (年間実績) 2,450,000 円	浅い場所では作業できない． 1 回平均約 5 t 回収 (年間)約 35 t 回収

表 2-2　海の公園において検討されたが実用化されていない回収方法

（(財) 横浜市臨海環境保全事業団資料）

方　法	内　容	問　題　点
バキューム方式	バキュームを用いて波打ち際のアオサを海水ごと吸い上げ，後に水と砂を分離する．	吸込口の径によってはアオサが詰まり，管の径によっては水の重さにより移動の自由が利かず作業効率が悪い． （実験したが，上記問題が解決できず断念した）
機械くま手接続式	2m程度のフォークを機械に接続し，引いたり押したりしてアオサの山を築き，後に取り上げる．	タイヤ式機械は波打ち際の砂にもぐり，キャタピラ式は渚を凹まして荒らす．海底の凹部に取り残しを生じる．最終的に車に積み込むまでに何段階もの運搬が発生するため，意外と効率が悪い．(現在，陸上ではタイヤ式で一部実施中)
人海戦術方式	アルバイトを雇用し，収集量に応じた賃金支払いで競争力を生み，作業効率を上げる．	混雑時の作業は人力収集が最も安全で小回りも効く．本案はその作業効率を上げるものだが，アルバイト雇用に関して請負業者との調整，勧誘方法，安全管理などを検討する必要あり．
投網方式	大型地びき網の小型版．10m程度の網を投げ込み，機械で斜めに引いてアオサを陸に引き上げる．	アオサの重さと網の強度との関係，混雑時の安全対策を十分検討すれば可能．しかし，実験の結果，トラクター程度の力では，時間あたりの回収量が人力と変わらなかった．
アオサ専用回収船	地元企業が特許を取り開発中．ベルトコンベアーを海中に差込みアオサを収集し，砂と水を分離する．水深 30cm まで作業可能	起伏のある海底面への対応なども考えられており，実用性は高いと考えられる．ただし設計段階であり，資料は図面のみ．また，船上に回収したアオサの陸揚げ・処分方法などが不透明である．